

## 演 題

「三河一向一揆の社会的背景と三河武士たちの動き」

講 師 市 橋 章 男 様

日 時 令和 5 年 4 月 16 日(日)

10:50～

(作左の会総会終了後)

場 所 六ツ美西部学区 こどもの家

### ◆講師プロフィール

1954 年 岡崎市生まれ。

國學院大學で史学を専攻。新編岡崎市史調査員。

教職員退職後、ふるさと岡崎にかかわる歴史・人物の著作活動を始める。

2005 年、岡崎長誉館で「おかざき塾歴史教室」を主宰開校。

2017 年、タニザワ大学研修センターで「岡崎ふるさと歴史講座」を開講。

元二松学舎大学大学院研究員、全国歴史研究会特別会員。

# 「三河一向一揆の社会的背景と三河武士たちの動き」

## I 一向一揆の背景

### (1) 一向宗の広がり…「分かりやすい教え」の原点

- ・親鸞の浄土真宗が、急速に人々に支持されたワケとは。  
熱心な信徒を生み出す「装置」としての「聖徳太子信仰」。
- ・「聖徳太子信仰」とは…京都太秦広隆寺等に見られる「太子信仰」
- ・蓮如による道場の拡大一応仁寺より
- ・「一向宗」とは領主層に立ち向かう「危険な宗教集団」として捉えられていた。一向宗という宗派はない。
- ・三河三ヶ寺（上宮寺・勝鬘寺・本證寺）と土呂本宗寺の勢い。

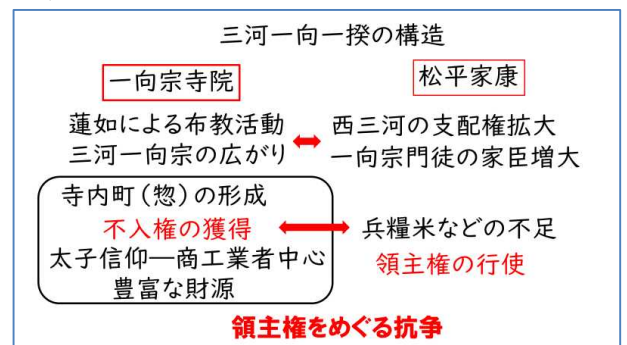
「当国碧海郡野寺村の本證寺と申すは、一向宗の小本寺にて、  
**守護不入の道場、当国三箇寺の其の一箇寺なり**」（『三州一向宗乱記』）  
・「惣」の形成と自治—特に真宗寺院が中心  
領主より得た「**不入の特権**」※「**守護不入の権**」が正確



聖徳太子二歳「南無仏」像（満性寺蔵）

### (2) 一向宗寺院と家康公の対立点…「領主権抗争」（右図）

- ・広忠、今川氏が認めていた本願寺派寺院の「特権」。  
⇒一向宗寺院と家康の『領主権抗争』
- ・「惣村」の形成と、その強力な経済力。



## 2 一向一揆の展開

### (1) 一揆の発端「上宮寺説」永禄6年（1563）9月

- ・酒井正親の命により、家臣の菅沼定顕が佐々木村一帯で兵糧を徴収する。
- ・上宮寺の境内に集めてあった「粃米」を徴収する。
- ・寺内不入の特権を侵されたということで、国中の一向宗門徒に呼びかけ菅沼の屋敷を襲撃する。
- ・集まった人数は1400人を超え、菅沼家は大騒動となる。
- ・下人たち、婦女子、子供まで打ち叩き、家の財宝まで略奪する。
- ・菅沼定顕は主の酒井正親にこのことを訴え、一向宗と対決姿勢をとる。

一揆の発端は牛窪攻めの砦に必要な兵糧米  
今川方にはこれを憤り所々のたゝかひやむ時  
なしといへども。此ほど小坂井牛窪邊の新寨に  
糧米をこめ置るゝに。御家人等佐崎の上宮寺の  
粃をむげにとり入たるより。一向専修の門徒等  
俄に蜂起する事ありしに。普第の御家人等これ  
にくみするもの少からず。國中騒擾せしかば。  
君御みづからせめうたせたまふ事度々にして。  
明る七年にいたり門徒等勢をとるへて。御家人  
どもゝ罪をくひ歸順しなければ。



上宮寺（佐々木町）

一揆の拠点となる。昭和 60 年の火災で本堂などが焼失。「三河念仏相承日記」などの貴重な史料は復元されている。

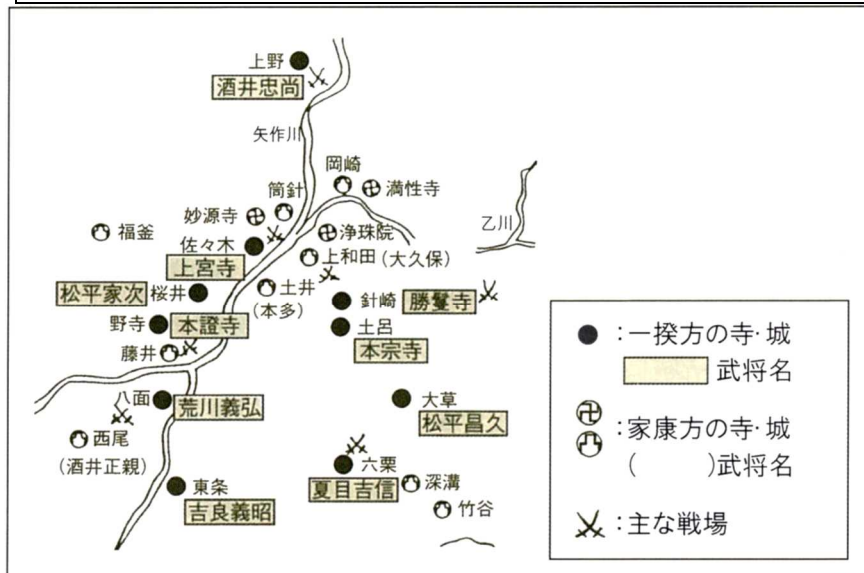


妙源寺柳堂（国重文／大和町）

親鸞説法の間所としての伝承がある。三河真宗の始まりの場所である。一揆の際は家康が本陣を置いたとされる。譜代家臣たちの墓がある。

## (2) 家臣団分裂の実態－「上級家臣」と「下級家臣」の対立構造

| 拠 点      | 一揆方の武士                                                                       |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|
| 土呂本宗寺    | 大橋 2、石河 8、佐橋 3、江原 2、本多 2、山本 2、黒柳 2、阿佐見 2、大見、佐野、内藤、松平、小野、月地、成瀬、岩堀、三浦、加藤、平井、野沢 |
| 佐々木上宮寺   | 太田 3、安藤 3、倉地、小谷、山田、鳥居、加藤、矢田、戸田                                               |
| 針崎勝鬘寺    | 渡辺 9、浅井 3、坂部 6、加藤 7、黒柳 2、浅岡 2、蜂屋、寛、久世、波切、近藤、本多、佐野、大塚、成瀬                      |
| 野寺本證寺    | 犬塚 4、(石河党、加藤党、本多党、手嶋党)、大津、小見、中河、牧、乙部                                         |
| 上野城（豊田市） | 足立 2、鳥居 2、高木、芝山、本多、榊原、大原、近藤、酒井                                               |



安達左馬助・同弥一郎・鳥居四郎左衛門・高木九助・荒山兵衛・本多弥八郎・榊原七郎右衛門・大原左近右衛門・近藤伝次郎・酒井作右衛門・鳥居金五郎・夏目次郎左衛門・石川修理等は、酒井將監勤めによりて、みな一揆方へ組しけるこそうたてけれ。

かかる時節に忠勤を尽し、無二の御味方たるは長沢に松平上野介康忠、御油に松平弥九郎景忠、竹谷に松平玄蕃頭清善、形原に松平紀伊守家忠、深溝に松平主殿助伊忠等は、各其城を守り、本多豊後守広孝は土井の城に有て、土呂・針崎・東条の敵と戦ひ、酒井雅楽助正親は西尾の城にあつて、野寺の一揆並荒川が兵と戦ひ、藤井の松平勘四郎信一、福釜の松平右京亮康親（成績に福釜系図によりて康親の父左馬介親俊に作る）其城に在て、野寺の一揆桜井が兵と戦ひ、日夜の合戦止時更になし。土呂・針崎は岡崎の南に当りて僅に一里余り、野寺・佐崎・桜井は岡崎の南西にて是も僅に一りばかり、酒井將監が上野の城其西北にありて、岡崎を去る事半りばかりなり。

図1-4-23 一向一揆関係図

(3) 一揆の経過   の部分は大河ドラマで描かれる関係資料

| 年 月 日          |       | 場 所               | 概 要                                                                                                                                                        |
|----------------|-------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 永禄6年<br>(1563) | 10月中旬 | 東条城               | 吉良義昭の立て籠もる東条城を攻める。12月、東条松平家忠の家老、松井忠次が攻略する。吉良義昭は出奔。                                                                                                         |
|                | 同月(?) | 上野城               | 酒井忠尚による岡崎城攻撃未遂。吉良義昭の挙兵に呼応したのか?矢作川を渡り岩津に攻め込むが、事前に内応した武士あり。家康方の伏兵に会い、上野城へ退散。翌年9月まで籠城し抵抗を続ける。                                                                 |
| 永禄7年<br>(1564) | 1月11日 | 上和田砦              | 土呂(本宗寺)・針崎(勝鬘寺)一揆が上和田砦に押し寄せ、大久保一党と大激戦。この戦いで大久保忠世・忠勝兄弟は共に片目を負傷。家康が駆け付け、劣勢を持ち直す。鵜殿十郎三郎と宇津与五郎が蜂屋半之丞貞次と渡辺高綱に討ち取られた。その渡辺高綱は甥である内藤家長に射殺された。                      |
|                | 1月12日 | 上和田砦              | 土呂・針崎の一揆が再び上和田砦を攻める。家康が再び援軍として駆け付け一揆は後退するが、その際水野藤十郎忠重が 殿 の蜂屋貞次と槍を合わせたがかなわず退くと、その後に槍を合わせた松平金助は討たれた。その直後家康が駆け付け蜂屋に声をかけると、蜂屋は槍を担いで退散した。                       |
|                | 1月13日 | 針崎<br>(勝鬘寺)       | 早朝、大久保一族が針崎に押し寄せる。大久保忠世は本多正重を狙撃し命中したが傷は浅かった。一揆方は大久保勢を挟み撃ちにする計略を立てていたが、蜂屋貞次がそれとなく知らせたため、上和田に引き揚げた。                                                          |
|                | 1月14日 | 佐々木<br>(上宮寺)      | 深津九三郎、青山虎之助が上宮寺に潜入し火をかけようと試みる。が捕まって鳩首される。                                                                                                                  |
|                | 1月15日 | 佐々木               | 早朝、佐々木の一揆は桑子の妙源寺に籠っていた家康側と激突した。家康は鐘の音を聞いて加勢に駆け付け、一揆を上宮寺に押し戻した。この時刈谷の水野信元が陣中見舞いに訪れている。                                                                      |
|                |       | 小豆坂一<br>美合馬頭<br>原 | 対面の最中に、土呂・針崎の一揆が馬頭原から岡崎城に向けて展開している報告を受け、信元と共に加勢に駆け付ける。矢作川を渡りそのまま小豆坂まで押し上がり、石川新九郎・新七郎を将とする一揆勢を攻めた。馬頭原で乱戦となったが家康方が勝利し、一揆方の首130を挙げた(翌日菅生河原に晒す)。 <b>土屋重治の死</b> |
|                | 1月25日 | 六栗城<br>(野場城)      | 野寺の本證寺から退却した大津半左衛門、乙部八兵衛らの浪人衆と門徒が、六栗の夏目吉信を頼り籠城。頑強に抗戦したが、深溝松平伊忠が乙部の内応により城を陥した。土蔵で捕えられた <b>夏目吉信は家康に赦され</b> 、松平伊忠の与力となった。                                     |
|                | 2月8日  | 安城小川              | <b>野寺本證寺の空誓を将とする一揆と安城小川で戦う。</b> 桜井の円光寺順正が空誓の身代わりとなって壮絶な自害を遂げた。家康は本證寺を攻めずに引き揚げる。                                                                            |



本證寺（安城市）

一揆の拠点となる。僧である空聖がリーダーとなり最後まで抵抗するが順正の身代わり焼身自殺により終息する。安城歴博に多くの資料が残されている。



勝鬘寺渡辺高綱の墓碑（針崎町）

渡辺守綱の父。甥である内藤家長に射殺されたが、家長は信長に賞されている（徳川実記）。渡辺父子は門徒武士として家康に抵抗した。

### 3 一向一揆の収束

#### (1) 一揆側から「和議」を持ち出す（2月中旬）。

・大久保忠佐、忠勝を仲介として、蜂屋貞次が申し入れる。

#### (2) 一揆側の「三条件」

- ①一揆参加者の赦免
- ②一揆張本人の助命
- ③寺は元の通りに

「御手サエ広クナラセラレ給ハババ…」

（大久保忠俊『三河物語』より）

⇒家康公天下統一への根幹をなす考え方

#### (3) 起請文の発給—上和田浄珠院での和議成立

（永禄7年2月28日）

- ・蜂屋貞次が石川家成の兵を土呂の寺内に引き入れ、一揆の解体を行う。
- ・桜井の松平家次は降伏し、本領安堵。
- ・東条義昭、荒川義弘、松平昌久は国外追放
- ・上野の酒井忠尚は逃亡（駿河へ逃亡か）

#### (4) 許された代表的な家臣、その活躍と最期

- ・鳥居忠広…帰参を認められる。三方ヶ原の合戦で家康公に対し無謀な出陣を諫めるが聞き入れられず。代わりに先陣して敵の大將を討ち取るが、自分も命を落とした。
- ・夏目吉信…三方ヶ原の合戦で窮地に立たされた家康公の身代わりとなって討死。
- ・蜂屋貞次…仲間同士の殺戮に耐え切れず、和議を結ぶ。後に家康公が三河の平定に乗り出した際は、旗本側近として随行した。吉田城の攻防戦で家康公を守りながら敵兵の銃弾を浴び討死したとされる。



浄珠院太子堂（上和田町）



土呂八幡宮を再建（国指定・福岡町）

家康の命により、石川数正が再建した。江戸初期に代官・畔柳寿学により整備、現在の姿に。西側屋根の部分に陰陽道の五芒星が記されている。